

陸連時報 三

2018
平成30年

5 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2018年度主要競技会日程	182
理事会報告	183
強化関連情報	186
NSW Junior Championships への参加 (U20オリンピック強化コーチ 杉井 将彦)	
第23回世界ハーフマラソン選手権大会 (バレンシア/スペイン) 報告 (長距離・マラソンディレクター 河野匡)	
2018年世界室内選手権報告書 (オリンピック強化コーチ 櫻井 健一)	
アスリート委員会設立と活動報告	
2017-2018ダイヤモンドアスリート第3回リーダーシッププログラム報告 (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介)	
2018 X-RUN CHIBA クロスカントリー大会/第3回全国中学生クロスカントリー選手権大会	190
2018 ジャパンレースディレクターズミーティング (2018JRDM)	191
第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会 (会長 横川浩)	192
第23回 JAAF コーチング・クリニック (男女競歩ナショナルチーム強化スタッフ 清水茂幸)	194
大会観戦ガイド	195
陸協 NEWS	196
事務局からのお知らせ	198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2018年度主要競技会日程

	主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	15(日)	102 日本選手権50km競歩	石川	7(土)	★ GP 全栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	15(日)	20 長野マラソン	長野	21(土)~22(日)	★ GP 出雲陸上	県立浜山公園(鳥根)			
5月				21(土)~22(日)	★ GPP TOKYO Combined Events	駒沢(東京)			
				22(日)	★ GPP 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
				22(日)	★ 8 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜			
				28(土)~29(日)・祝	★ GPP 織田記念陸上	広域公園(広島)			
	20(日)	ゴールデングランプリ	ヤンマースタジアム(長岡大)	3(木・祝)	★ GPP 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	5(土)~6(日)	28 世界競歩チーム選手権	太倉(中国)
6月				5(土・祝)	★ GP 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)		調整中	アジアグランプリ
				5(土・祝)	★ GP ゴルデンゲームズinのべおか	延岡(宮崎)			
				6(日)	★ GP 木南道孝記念	ヤンマースタジアム(長岡大)			
7月				13(日)	★ 28 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
	16(土)~17(日)	64 全日本中学通信陸上	各地	3(日)	★ GP 布勢スプリント	布勢総合(鳥取)	7(木)~10(日)	18 アジアジュニア選手権	岐阜(岐阜)
	16(土)~17(日)	102 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	3(日)	★ GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
	22(金)~24(日)	102 日本陸上競技選手権	維新百年記念(山口)	15(金)~17(日)	○ '18 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム(平塚神奈川)			
8月				24(日)	★ 33 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
	2(木)~6(日)	71 全国高校陸上	三岐通Gスポーツの杜(伊勢三動)	8(日)	★ GP 南部記念陸上	厚別(北海道)	8(日)	5 日中韓3カ国交流	厚別(北海道)
9月				21(土)	★ 58 実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム(平塚神奈川)	10(火)~15(日)	17 U20 世界陸上競技選手権	タンペレ(フィンランド)
	10(金)~12(日)	53 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	5(日)	★ 43 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)			
	18(土)	34 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)						
	18(土)~21(火)	45 全国中学陸上	県総合(岡山)						
10月	18(土)~19(日)	53 全国高専陸上	県民総合(熊本)	26(日)	★ '18 北海道マラソン	北海道	25(土)~30(木)	18 アジア競技大会	ジャカルタ(インドネシア)
	25(土)~26(日)	6 全国高校陸上選抜	ヤンマースタジアム(長岡大)	6(木)~9(日)	○ 87 日本学生対校	等々力(神奈川)	5(水)	デカネーション	ソツビル(フランス)
				21(金)~23(日)	★ 66 全日本実業団	ヤンマースタジアム(長岡大) / ヤンマースタジアム(長岡大)	8(土)	30 IAU100km世界選手権	スベチマー(クロアチア)
11月				22(土)~24(日)・祝	★ 39 全日本マスターズ	布勢総合(鳥取)	8(土)~9(日)	3 コンチネンタルカップ	オーストラリア(チェコ)
	5(金)~9(火)	73 国民体育大会	福井県福井(福井)	8(月・祝)	○ 30 出雲全日本大学選抜駅伝	島根	6(土)~18(木)	3 ユースオリンピック	アエスアイズ(アルゼンチン)
	12(金)~14(日)	49 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	27(土)~28(日)	GP 北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)			
	19(金)~21(日)	34 U20日本選手権	瑞穂(愛知)	28(日)	★ 57 全日本50km競歩高島	山形			
12月	19(金)~21(日)	12 U18日本選手権	瑞穂(愛知)	28(日)	○ 36 全日本大学女子駅伝	宮城			
	27(土)~28(日)	102 日本選手権リレー	北九州市本城(福岡)	4(日)	○ 50 全日本大学駅伝	愛知・三重			
				11(日)	★ 34 東日本女子駅伝	福島			
				18(日)	★ 8 神戸マラソン	兵庫			
				25(日)	★ 38 全日本実業団女子駅伝	宮城			
2019年1月				25(日)	★ 8 大阪マラソン	大阪			
	2(日)	72 福岡国際マラソン	福岡	9(日)	★ '18 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	9(日)	4 さいたま国際マラソン	埼玉	16(日)	★ 49 防府読売マラソン	山口			
	9(日)	21 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	23(日・祝)	★ 37 山陽女子ロードレース	岡山			
2月	16(日)	26 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	30(日)	○ '18 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
	23(日・祝)	69 30全国高校駅伝	京都	4(日)	○ 50 全日本大学駅伝	愛知・三重			
	13(日)	37 都道府県対抗女子駅伝	京都	11(日)	★ 34 東日本女子駅伝	福島			
	20(日)	24 都道府県対抗男子駅伝	広島	18(日)	★ 8 神戸マラソン	兵庫			
	27(日)	38 大阪国際女子マラソン	大阪	25(日)	★ 38 全日本実業団女子駅伝	宮城			
3月				25(日)	★ 8 大阪マラソン	大阪			
	2(土)~3(日)	'19 U20日本室内大阪	大阪城ホール(大阪)	3(日)	68 別大マラソン	大分			
				3(日)	73 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	17(日)	4 全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	10(日)	59 唐津10マイル	佐賀			
	17(日)	102 日本選手権20km競歩	兵庫	10(日)	47 実業団ハーフマラソン	山口			
	23(土)	102 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	17(日)	30 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
	23(土)	34 U20日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	17(日)	53 青梅マラソン	東京			
3(日)	'19 東京マラソン	東京	17(日)	'19 熊本マラソン	熊本				
10(日)	'19 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	17(日)	'19 京都マラソン	京都				
10(日)	74 びわ湖毎日マラソン	滋賀	17(日)	○ 22 日本学生ハーフマラソン	東京	17(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)	
17(日)	43 全日本競歩能美	石川	17(日)	○ 13 日本学生20km競歩	石川	30(土)	43 世界クロスカントリー選手権	オーフス(デンマーク)	
				17(日)	○ 22 日本学生女子ハーフマラソン	島根			

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

※ニトロアスレチック 日程/場所調整中

理事会報告

第48回理事会

日時：2018年3月16日（金）

13時58分～17時14分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

【協議事項】

1. 第8期事業計画・収支予算

尾縣専務理事より事業計画が、小手川財務委員長より収支予算が、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

【第8期事業計画】

第8期事業計画における重点事項は下記の通り。

(1) 2020年東京オリンピックへの新たなチャレンジ

東京オリンピックまで残り2年となり、2019年ドーハ世界選手権から導入されるIAAFポイントランキングシステムへの対応等、新たなチャレンジの年とする。

〈東京2020オリンピックの目標〉

- ・東京オリンピックでのメダル及び入賞獲得
- ・東京オリンピック以降につながるレガシー構築

(2) トップアスリートの国際競技力向上

2020年に想定される最高の結果を残すために、各種目の競技レベルに応じ、種目別に特化した戦略的活動を推進する。2018年の最重要国際競技会は、ジャカルタ2018アジア競技大会である。

(3) 指導者養成と競技者育成

指導者資格有資格者数5,000人計画に基づき、指導者養成を積極的に展開する。競技者育成指針の策定、指針に準じた理念をとりまとめ、各事業におけるアクションプランの構築を図る。

(4) アンチ・ドーピング活動と医科学サポート

昨今の陸上競技界に於けるドーピング問題を受け、アンチ・ドーピング活動を更に強化する。インテグリティ確保のため、アンチ・ドーピングの理念を十分に理解したアスリートを育成する。ジュニアアスリートの育成、トップアスリートの強化として、医科学サポートを推進する。

(5) 国際的な活動

スポーツを通じた国際交流は日本の国策であり、国際社会との連携を深め、世界情勢を把握した上で、更に陸上競技を魅力あるスポーツとする。6月に岐阜で開催する第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を成功に導く。

(6) ウェルネス陸上の実現

「JAAF VISION 2017」に謳うJAAFミッションの柱、ウェルネス陸上の実現のアクションとして、RunJapanを設立する。市民ランナーの環境構築に取り組み、市民ロードレースの統括・支援を通じて、アスレチックファミリーの増加に貢献する。

【第8期収支予算】

経常収益22億7,540万円、経常費用24億2,540万円、当期経常増減額は△1億5,000万円となる。

(1) 経常収益

- ①基本財産運用収益は660万円。基本財産12億円に対する利息収入。
- ②登録料受入収益は2,600万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各100円、高校と中学生が各50円。第7期と同等の登録者数を見込み、同額とした。
- ③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。
- ④受取寄付金はなし。
- ⑤受取委託金・助成金は、4億6,700万円。日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・補助金・助成金収入。
- ⑥事業収益は17億1,570万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。
- ⑦その他事業収益は5,340万円。器具検定料、競技場公認料、ナンバーカード広告料、後援名義使用料等の収入。

(2) 経常費用

- ①事業費は23億975万円。競技会予算、委員会予算、広報予算、加盟

団体等への地域活性化助成金、アスレティックアワード等イベントに関する費用。

②管理費の事務局運営費等は1億1,565万円。

(3) 各委員会予算

総務企画委員会20万円、強化委員会5億7,985万3,000円、法制委員会10万円、財務委員会20万円、競技運営委員会2,100万円、普及育成委員会6,421万円、施設用器具委員会1,097万円、科学委員会1,300万円、医事委員会1,787万円。

2. 2018年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。詳細は、本時報182頁参照。

3. 2017年度栄章

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。功労章3名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、日本記録章延6名、U20日本記録章述7名、U20室内日本記録章1名、U18日本記録章延5名と1チーム。

4. 栄章審査委員会委員の選任

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、麻場一徳理事・強化委員長の選任が承認された。

5. 日本記録強化費の改定

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、日本記録強化費の改定が承認された。

【改定箇所】_____部分改定

2018年4月1日より

改定
1. 日本記録強化費：100万円 ※リレーの場合は、出場した選手に50万円を支給する。
2. 条件 (1) 日本記録強化費の対象種目は、オリンピック種目とする。 (2) U20日本記録、U18日本記録、室内日本記録、U20室内日本記録及びU18日本室内日本記録は対象外とする。 (3) 対象競技会は、公認競技会とする。 (4) 同年度内に複数樹立した場合、都度、支給する。 (5) 同一競技者が別種目で樹立した際にも、強化費を支給する。 (6) 競技開始時の日本記録を基準とする。 尚、支給方法は銀行振込みとする。日本記録樹立確認後、本連盟事務局より必要な書類を送付する。 日本記録強化費の支払いは、ドーピングコントロールテストの陰性確認等、競技結果に異議が発生しない状況を確認してからとする。 但し、後日、何らかの疑義が発生し、結果が覆された場合には、本連盟は強化費の返金を求め、対象者は直ちにそれに応じなければならない。

6. 第75回（2020年度／鹿児島）・第76回（2021年度／三重）国民体育大会実施種目

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2020年度、鹿児島で行う第75回、2021年度、三重で行う第76回の国民体育大会の実施種目が承認された。（資料1参照）

7. ジャカルタ2018アジア競技大会マラソン日本代表選手選考要項の改定

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、ジャカルタ2018アジア競技大会マラソン日本代表選手選考要項において、補欠、男女各1名を「男女各1名又は2名」にすることの改定が承認された。

8. 2018年度強化競技者規程

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2018年度強化競技者規程が原案通り承認された。（資料2参照。）

9. 登録会員規程の改定

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、現在の規程は日本国内に活動拠点がある競技者を前提としていたものを、海外に活動拠点がある競技者にも対応するものとして、登録会員規程の改定が承認された。

[改定箇所] _____部分改定
2018年3月16日より

改定	
(登録の種類)	第6条に項目追加 在外者登録：海外に居住する日本国籍を有する者であって、本連盟が特に認めた者が個人でおこなう登録。
(登録の手続き)	第10条に項目追加 在外者登録：登録しようとする者が、本連盟が別に定める申請書の本連盟に直接提出することにより、申請するものとする。登録料は本連盟がこれを定める。
(代表出場権)	第14条 登録会員は、本連盟、その地域を管掌する地域陸協、都道府県陸協並びに所属加入団体以外のものを代表して競技会に参加することはできない。ただし、勤務先並びに出身学校を代表するときはこの限りではない。在外者登録者は、予め本連盟の承認を受けた勤務先・在学している学校その他の団体を代表して競技会に参加することができる。

※ 2018年度の登録料は、10,000円/人とし、毎年見直す。
※ 対象者は当面、本連盟強化競技者、強化対象競技者とする。

10. 評議員会の開催

尾縣専務理事より、評議員会の開催について資料に基づき説明があり、

定時評議員会として2018年6月28日(木)15時からの開催が承認された。
【報告事項】

1. 強化委員会新組織体制

麻場強化委員長より資料に基づき、2018年1月26日付けの強化委員会新組織体制が報告された。

2. 2018年度強化競技者

麻場強化委員長より資料に基づき、ゴールドアスリート15名、シルバアスリート4名の2018年度強化競技者が報告された。

ゴールドアスリート(15名)：山縣亮太(セイコー)、飯塚翔太(ミズノ)、桐生祥秀(東洋大学)、ケンブリッジ飛鳥(ナイキ)、多田修平(関西学院大学)、藤光謙司(ゼンリン)、サニブラウン アブデルハキーム(東京陸協)、澤野大地(富士通)、松永大介(富士通)、高橋英輝(富士通)、山西利和(京都大学)、藤澤勇(ALSOK)、荒井広宙(自衛隊体育学校)、小林快(ビックカメラ)、丸尾知司(愛知製鋼)

シルバアスリート(4名)：大迫傑(ナイキオレゴンプロジェクト)、設楽悠太(ホンダ)、井上大仁(MHPS)、松田瑞生(ダイハツ)

3. 第8回アジア室内陸上競技選手権大会(2018/テヘラン)及び2018世界室内陸上競技選手権大会(バーミンガム)結果報告

4. その他国際競技会派遣報告

麻場強化委員長より資料に基づき、2018年2月1日～3日までイラン・テヘランで開催された第8回アジア室内陸上競技選手権大会、3月1日～3月4日までイギリス・バーミンガムで開催された2018世界室内陸上競技選手権大会、2月11日～2月14日までインドネシア・ジャカルタで開催された18th Asian Games Invitation Tournamentの日本代表選

【資料1】

第75回(2020年度/鹿児島)・第76回(2021年度/三重)国民体育大会実施種目

第73回(2018年度/福井)・第74回(2019年度/茨城)実施種目

種目	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
		A	B	共通		A	B	共通
100m	○	○	○		○	○		
200m								
300m	○	○			○	○		
400m								
800m	○	○			◎		○	
1500m								
3000m			○			○		
5000m	○	○			○			
10000m								
110mH/100mH	○			○	○		○	
300mH		○				○		
400mH								
3000mSC					○			
3000m競歩								○
5000m競歩				○	○			
10000m競歩	○							
走高跳	○			○	◎			
棒高跳		○			◎			
走幅跳	○		○		○		○	
三段跳								
砲丸投	○		○				○	
円盤投				○				○
ハンマー投	○	○			○	○		
やり投	○				○			○
4×100mリレー			○				○	
男女混合4×400mリレー					○			
2020 2021	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
A		B	共通	A		B	共通	
実施種目数	11	7	4	5	12	6	5	3
	1(リレー)				1(リレー)			
合計	1(リレー)				1(リレー)			
					56			

※◎の成年女子800m、成年女子走高跳および成年女子棒高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。

※参加人員(監督2名、選手29名/男子19名、女子19名以内)

(参考)

2018 2019	男子				女子			
	成年	少年			成年	少年		
		A	B	共通		A	B	共通
実施種目数	10	8	4	6	11	5	4	6
	1(リレー)				1(リレー)			
合計					56			

手の結果が報告された。

5. 第30回IAU100km世界選手権大会 (2018 / スペティマーティン) 日本代表選手選考要項

風間事務局長より資料に基づき、第30回IAU100km世界選手権大会 (2018 / スペティマーティン) 日本代表選手選考要項が報告された。本連盟WEBサイト http://www.jaaf.or.jp/files/upload/201803/16_210311.pdf参照。

6. 主催競技会の公募

尾縣事務理事より、U20日本陸上競技選手権大会・U18日本陸上競技選手権大会の2019年度から4年間の会場の公募について、報告された。

7. 岐阜2018アジアジュニア陸上競技選手権大会準備状況

風間事務局長より資料に基づき、2018年6月7日～6月10日まで岐阜県・岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催される第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会の準備状況が報告された。

8. 2018年度S級公認審判員昇格者

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。都道府県陸上競技協会からの推薦者215名に対してS級昇格者は214名であった。

9. 2018年度競技規則の修正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

10. 公認競技会規程の改定

※協議事項として取り扱い

鈴木競技運営委員長より資料に基づき説明があり、2017年12月19日開催の理事会で即時承認されていた公認競技会規程の改定を改めて協議し、施行日を2019年4月1日(予定)とすることが承認された。

[改定箇所]

(公認競技会の主催)

第3条

2019年4月1日、第10項について現行規定に換えて以下の改正規定を施行(予定)

10 道路競走競技会において、本連盟、加盟団体、加入団体(ただし都市区町村陸上競技協会に限る)、地域陸上競技協会が共催または主管し、且つ本連盟が別途定める運営基準を遵守することを条件に、本連盟は、地方公共団体その他本連盟が認める団体に、当該競技会について、公認競技会を主催する権利を委譲することができる。

※なお、施行においては、運営基準の制定が必須となる。

11. 2017年度加盟団体連絡協議会報告

尾縣事務理事より資料に基づき報告された。また、加盟団体の取り組みは、中国地域の広島陸上競技協会より紹介があった「広島かけっこキャラバン」、「ひろしまストリート陸上」が浜崎理事より報告された。

なお、非公開において、「ジャカルタ2018アジア競技大会マラソン日本代表選手選考」を協議し、原案の通り承認された。また、2019年第103回日本陸上競技選手権大会マラソンを男女ともにマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)とすることが承認された。

【資料2】

強化競技者規程

(目的)

第1条 公益財団法人日本陸上競技連盟(以下、本連盟という)は、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)において、メダル獲得及び8位入賞が期待されると本連盟が認定した競技者の、本連盟の強化方針に沿った個人強化活動の充実を図るために本規程を定める。

(格付けの基準)

第2条 強化競技者の格付けは2ランクとする。
(1) ゴールドアスリート
①強化競技者指定対象国際競技会で8位以内に入賞、またはリレー種目でメダルを獲得した競技者。
②強化競技者標準記録対象競技会においてゴールドアスリート指定標準記録を満了した競技者。
(2) シルバーアスリート
①強化競技者指定対象国際競技会のリレー種目で8位入賞した競技者。
②強化競技者標準記録対象競技会においてシルバーアスリート指定標準記録を満了した競技者。
2 強化競技者指定対象国際競技会、強化競技者標準記録対象競技会及び指定標準記録は、年度毎に本連盟が別に定めるものとし、本連盟は、これを年度途中においても、見直すことができるものとする。

(資格の付与)

第3条 本連盟強化委員会は、競技者が第2条のいずれかに該当し、かつ、当該競技者が第7条に定める強化競技者の義務を遵守することを承諾し、かつ本連盟との間で強化競技者契約を締結することを条件として、当該選手に対し、強化競技者として資格を付与する。

(指定の期間)

第4条 ゴールドアスリートの指定期間は、資格を付与された日(以下「資格付与日」という)の翌日から資格付与日が入属する事業年度の翌事業年度の末日までとする。
2 シルバーアスリートの指定期間は、資格付与日の翌日から資格付与日が入属する事業年度の末日までとする。
3 前各項にかかわらず、資格付与の要件若しくは処遇について本規程が改定され、又は、第2条第2項に基づいて本連盟が指定する競技会若しくは標準記録の年度毎の指定若しくは年度途中における見直しが行なわれた場合において、改定後の規程又は、

競技会若しくは標準記録の新年度における指定若しくは年度途中の見直しの趣旨に照らし、本連盟強化委員会が必要と認めるときは、本連盟強化委員会が、指定された期間の途中であっても、指定を解除し、または処遇の変更をすることができる。

(指定の解除)

第5条 本連盟強化委員会は、強化競技者が、次のいずれかに該当するときは、年度途中であっても、指定を解除し、または強化費の使用を停止することができる。
(1) 引退した競技者
(2) 長期間競技会に出場していない競技者
(3) 居場所情報の提出義務違反や検査未了等、アンチ・ドーピングの理念に反する行動をとった競技者
(4) 第7条に違反した競技者
(5) 強化競技者契約に違反した競技者
(6) その他、本連盟強化委員会が強化競技者として不適切であると判断した競技者

(処遇)

第6条 強化費は、ゴールドが年間400万円、シルバーが年間150万円を上限とし、資格付与の時期により金額は異なる。
なお、強化競技者の処遇の詳細は、本連盟が別に定める。

(強化競技者の義務)

第7条 強化競技者の指定を受けようとする競技者は、次に定める義務を遵守することを承諾すると共に、本連盟との間で、別途、強化競技者契約を締結しなくてはならない。
(1) 本制度の目的に即して、競技力の向上に努める。
(2) 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する国際大会に出場する。
(3) 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する行事に参加する。
(4) 原則として年1回、本連盟強化委員会が指定する測定及びメディカルチェックを受診する。
(5) アンチ・ドーピングに関わる全ての基準を適正に順守する。
(6) 本連盟強化委員会に対し、定められた時期に強化計画の提出と活動実績の報告をする。
(7) 本連盟強化委員会が必要とした面接に応じる。
(8) 日本を代表するトップアスリートとして自覚を持ち、メディアからのインタビュー、取材及び撮影などを受けるときは、身だしなみや服装に注意し誠実に対応する。
(9) メディアへの対応、肖像権等に関する義務は、本連盟が別に定める。

2018年度強化競技者指定に関する対象競技会

※IAAFポイントランキングシステムの大会カテゴリが定められた場合の対応を検討中。

1. 強化競技者指定対象国際競技会

2018年度は対象大会なし。

2. 強化競技者標準記録指定競技会

2018年度の新たな指定は、2018年4月1日～2019年3月31日までの下記競技会を対象とする。

(1) 国際競技会

- 1) ジャカルタ2018アジア競技大会
2) 太倉2018世界チーム競歩選手権
3) タンベレ2018U20世界陸上競技選手権大会
4) IAAF DIAMOND LEAGUE 2018
5) IAAF WORLD CHALLENGE 2018 (セイコーゴールデングラプリ陸上2018大阪を含む)
6) IAAF CHALLENGES 2018 (混成競技、競歩、ハンマー投)
7) World Marathon Majors
8) 2018アジアグランプリ
9) ジャカルタ2018アジア競技大会又はドーハ2019世界陸上競技選手権大会の日本代表選考要項で指定された選考競技会
10) ヨーロッパ陸連公認Premium Meetings / Classic Meetings / Area Permit Meetings
11) 本連盟が日本代表として派遣した、上記以外の国際競技会

(2) 国内競技会

- 1) 第102回日本陸上競技選手権大会
2) 2018日本グランプリシリーズ(グランプリプレミア・グランプリ)
3) ホクレンディスタンスチャレンジ2018

2018年度 強化競技者標準記録 ※ () 内が2018年度

Table with columns for Gender (男子/女子), Record Type (ゴールド/シルバー), and Event (種目). Rows list various track and field events with their respective record times for Gold and Silver medalists.

※2017ゴールドは世界ランク4位平均、シルバーは8位平均
※世界ランク4位、8位の記録は2013、2015、2016、2017の平均記録で算出

NSW Junior Championshipsへの参加

U20 オリンピック強化コーチ 杉井 将彦

1. はじめに

昨年ケニア（ナイロビ）において7月12～16日の日程でU18世界陸上競技選手権大会が開催された（U18世界陸上競技選手権はこの大会を最後に今後は開催されない）。日本はこの競技会への参加を予定しており、代表候補の選考まで済ませていた。しかし懸念されていた開催国ケニアの治安に対し、直前に入った具体的な情報により（総選挙の影響を受け治安が悪化している）残念ながら派遣中止という結論に至った。そしてこのU18世界選手権代表候補選手に対し海外での競技会へ参加する機会を用意して頂き、オーストラリア（シドニー）で開催されるNSW Junior Championshipsへの参加の希望を募った。結果的にU18世界選手権代表候補選手の中から男子18人、女子15人が参加をした。

2. 大会概要

NSW Junior ChampionshipsはU14～U20まで（パラを含む）の各クラスにおいてレースが用意されており年齢に応じて距離・高さなどの規格が違っていた。ハードル種目で例を挙げると、男子110mHではU20は110mH（99.1cm）、U17～18は110mH（90.1cm）、U15～16は100mH（84.0cm）、U14は90mH（76.2cm）と高さインターバルの距離を細かく設定をしている。また400mHではU20は400mH（91.4cm）、U17～18は400mH（84.0cm）、U14～16までは200mH（76.2cm）となっていた。種目毎の参加人数は少ないため決勝だけという種目が多かったが、100mや走り幅跳びなどの基幹種目への参加人数は多く、将来性豊かな競技者がエントリーしていた。今回の参加を大会主催者からは大変歓迎して頂き、大会前の練習から大会期間中に至るまで問題は全くなかった。

3. 生活環境

宿舎はシドニー・オリンピックパーク内にあるホテルで競技場の前にあり、周辺の治安も良くほとんど徒歩移動で済ませることができた。気温は最高気温が27度～30度、最

[男子]

種目	氏名	結果
100m	江川 雅人	11秒18 (+2.1) 8位
200m	高木 悠圭	22秒19 (-2.1) 6位
400m	メルドラム・アラン	47秒83 2位
800m	鳥居 風樹	1分51秒34 1位
800m	鷗沢 葉月	1分58秒85 10位
3000m	田沢 廉	8分27秒43 1位
3000m	小指 卓也	8分34秒10 2位
3000msc	人見 昂誠	10分01秒59 3位
走高跳	佐藤 駿平	1m90 4位
走幅跳	錦織 岳	7m03 (+1.4) 4位
走幅跳	加藤 楓	7m06 (-0.6) 3位
三段跳	泉谷 駿介	15m24 (+0.7) 1位
棒高跳	森田 凌世	4m70 1位
砲丸投5kg	稲福 颯	17m35 3位
砲丸投5kg	松田 貴太	16m78 4位
やり投700g	中村健太郎	63m70 1位
5000mW	住所 大翔	20分15秒14 1位
5000mW	鈴木 大	22分04秒61 2位

低気温が20度～17度程度で湿度も低く、とても過ごしやすい気候であった。ただシドニーの物価は日本の1.5～2倍ほどと高く、サラダとドリンクだけでも15ドル（1500円）程度になってしまうほどで、食事については苦労した。

4. 競技結果

全体的に競技会のレベルに対し日本人選手の競技レベルが高く、ほとんどの選手がメダルを手にすることができた。しかし冬期トレーニング中の技術練習・スピード練習ともに不足している中での大会参加で各選手苦労をしていた。とくに短距離・障害・跳躍は難しい調整が必要となっていた。中でも男子三段跳びは突然の雷雨の影響で、競技が翌日に変更され女子U20走り幅跳びと同時に進行となってしまったが泉谷選手はその状況下にあってよく対応した。長距離についてはロード・駅伝シーズン中であり力の差を見せていたが、もう少し前半から積極的にレースを引っ張ることができたのではないかと感じた。競歩種目についてはピットレーンも警告表示板もなかったため、後半の展開が少し消極的になってしまった。投擲は世界との差を大きく感じる種目が多いが、今回は女子砲丸投で大迫選手が優勝するなど力を発揮できていた。ダイヤモンドアスリートの中村選手も実力を発揮し優勝した。

5. 最後に

U18世界選手権の代表候補者に対し海外での競技会に参加する機会を作って頂いたことで、選手たちは大変貴重な経験をすることができた。その反面、全国から集合した高校生を南半球の競技会に参加させる難しさを痛感する結果となった。この時期に温暖な南半球を合宿地として選択することには問題はないが、競技会に参加することには怪我等のリスクが大きいと感じた。実際にレース中の怪我が1件、体調不良者も3名出たうえ、そのうちの2名（インフルエンザ）が競技会に参加できなかったことは残念であった。

[女子]

種目	氏名	結果
100m	前川 梨花	12秒19 (+0.6) 3位
200m	奥村 ユリ	欠場（インフルエンザ）
400m	南 千尋	56秒18 3位
800m	河田 実由	2分12秒77 4位
1500m	後藤 夢	4分24秒94 2位
3000m	林 英麻	9分36秒89 1位
400mH	関本 萌香	1分02秒08 1位
2000msc	野末 侑花	7分06秒75 1位
走幅跳	吉岡 美玲	5m80 (±0.0) 2位
走幅跳	高良 彩花	6m12 (+0.7) 1位
砲丸投	大迫 晴香	13m37 1位
やり投	高橋 奈々	欠場（インフルエンザ）
やり投	山内 唯華	41m47 2位
5000mW	田牧明日音	24分27秒10 2位
5000mW	藤井葉々子	23分07秒58 1位

第23回世界ハーフマラソン選手権大会(バレンシア/スペイン)報告

長距離・マラソンディレクター 河野 匡

1. 大会日時 2018年3月24日(土)
2. 場所 スペイン・バレンシア
3. 派遣期間 2018年3月20日(火)～3月26日(月)
4. 選手団及び成績

役職	氏名
団長	尾縣 貢
監督	河野 匡
男子コーチ	坂口 泰
女子コーチ	山下佐知子
ドクター	金子 晴香
トレーナー	矢嶋 友美
渉外	山田真理子

男子	団体	12位
大迫 傑	24位	1時間01分56秒
村山 謙太	46位	1時間03分07秒
園田 隼	71位	1時間04分12秒
上門 大祐	82位	1時間04分48秒
村山 結太	108位	1時間06分49秒

女子	団体	4位
森田 香織	17位	1時間10分46秒
一山 麻緒	19位	1時間11分02秒
前田 穂南	35位	1時間12分09秒
堀 優花	70位	1時間15分24秒

5. 総括

◆監督 河野 匡

大会4日前に日本を出発。時差調整及びトレーニングの流れを考慮してフランクフルト空港で降機し、マインツで1泊した後バレンシア入りした。一気に移動した場合バレンシア到着が深夜となるため選手の体調に配慮したスケジュールであったが、選手・コーチには好評であった。

大会準備はしっかり整備されていて、特にスタート・ゴール地点となる会場は水面に特設ゴールを設置し見事な演出であった。また運営も機能的に行われていて、エリート部と市民ランナーの部が円滑に行われていて街中が盛り上がり、観る側も楽しめる素晴らしい大会であった。このような大会を日本でも開催できればと感じた次第である。

レース詳細については以下の担当コーチの報告の通りである。

◆男子コーチ 坂口 泰

今大会には、大迫傑(ナイキオレゴンプロジェクト)、村山結太(旭化成)、それぞれ5000m、10000mの日本記録保持者、ハーフマラソン60分台の村山謙太(旭化成)と世界と上位で戦うことができる選手が代表となった。MGCの資格で選考された園田隼(黒崎播磨)、上門大祐(大塚製薬)は、初めての日本代表で自己記録の更新に期待した。代表5人全員順調な調整を経てスタートラインに立つことができた。

コンディションは強風、前半は向かい風が吹き付け5km14分30秒とペースが上がらずトップ集団でレースを進めることができた。村山謙太選手が先頭を引っ張る場面もみられた。村山結太選手は序盤からペースに乗ることができず5kmで先頭から100m後れた位置でのレースとなった。園田、上門選手はこのペースで粘り抜くことができれば自己記録を更新できるところで

あった。

しかし、先頭集団との差は徐々に開き始め、世界トップレベルとの差が如実に表れたのが15kmから20km。先頭は追い風の中5km13分1秒にペースアップ。ここでペースアップすることができず、大迫選手の1時間1分56秒(24位)が最高であった。団体は12位に終わった。

日本代表の大会で、まず達成しなければならないことは、大舞台で自己記録更新など自分の持っている力を最大限発揮することである。今大会では、代表選手全員が自己記録に遠く及ばず、低温、強風、雨というコンディションを考慮しても、力を発揮できたという評価はすることができない。

男子マラソンでは日本記録更新など好記録のニュースが続いたが、世界での選手層、競争の厳しさをあらためて身にしみて感じる事ができた大会でもあった。ジュリアン・ワンダース(スイス)選手が8位に入るなど、東アフリカ勢以外の選手も存在感を示してくるだろう。

東京オリンピックまでの時間はわずかである。今大会の結果に至るまでのプロセスも含め振り返り、この経験をマラソンでの向上に結びつけたい。

◆女子コーチ 山下 佐知子

今回代表に選出されたメンバーは全員がU23で、5名中4名が10000m 31分台のスピードを有し1名がMGC出場権獲得者と言う将来性あふれる顔ぶれでした。ところが、10日前に上原の故障欠場が決まり、上原以外にも、故障、体調不良で不安材料を抱えて現地入りした選手が複数いたのはとても残念でした。トレーナーやドクターの帯同もあり現地入り後は4名全員が上向きのコンディションでスタートに立てたのは幸いでした。

レースは強風吹き荒れる気象条件下で午後5時05分スタートでしたが、アフリカ勢がスタート直後より飛ばしたため、日本選手はレースの流れに乗るというより序盤より自分のペースで走る展開となりました。5kmの通過はトップ集団が15分39秒で、日本人トップは一山の16分13秒でしたが日本選手も15分台で入る積極性が欲しいと思いました。また強風の中でもひるまず先頭集団を引っ張り世界記録更新につなげたエチオピア、ケニア選手のメンタリティ、今大会ベスト10入りした選手のうち7名が自己ベストを更新したことは印象に残りました。世界を見据えるならば、日本選手も日頃の国内の試合において、先頭を引っ張り尚且つ逃げきる地力が必要だと思います。

今回出場した日本選手の中では後半順位を上げた森田が17位、続いて一山が19位でゴールし団体4位に貢献しました。東アフリカの選手の国籍変更でパーレーンが台頭しメダル獲得はなりませんでしたが、準備段階で故障者が相次ぎ調整に苦労した中で現時点の力は発揮した結果と思います。若手で国際舞台の経験が浅い選手ばかりでしたので、今後の糧となることは間違いありません。



2018年世界室内選手権 報告書

オリンピック強化コーチ 櫻井 健一

世界室内選手権は2018年3月1日から4日までの4日間、イギリスのパーミンガムにて開催された。日本代表選手としては男子60mハードルに増野元太選手（ヤマダ電機）が出場した。出場選手が1名であったため専任コーチ1名、トレーナー1名の計3名での遠征であった。

パーミンガムは記録的な異常気象による寒波の影響で到着時から数日の気温は終日マイナスと厳しい寒さで雪が降り積もっていた。試合会場となるArena Birminghamへは選手村から徒歩で10分という位置にあり関係者は徒歩にて会場へ移動していた。外は厳しい寒さであったが徒歩圏内で時間に縛られる事なく行動できた事で寒さがストレスとは感じなかった。前日のスタジアムツアーは特に行われなかったが、施設は開放されていたので各自で確認する形であった。トレーニングで使用する事もでき、公式のスタート練習も行われていた。ウォーミングアップエリアは地下にあり直線50mほどの走路が4レーン分用意されていた。走路の脇が仕切られておりトレーナーベドなどがおける待機スペースとなっていた。一般的に考えたらウォーミングアップスペースは狭く逆走する選手もおり若干危険を感じた。しかし外国人選手は慣れている印象で、皆落ち着いて準備を進めていた。海外の試合に出場することのようない会場で準備する事は多く、どんな環境であっても適応していく事が求められるだろう。出場した増野選手もスイスの試合で経験した会場と同じ環境であったため、問題なく準備はできていた。

大会の運営や演出などは素晴らしく、大会自体はとても盛り上がった。特に選手の入場は光の演出が工夫されていた。メダルセレモニーも大型のスクリーンを効果的に使い勝手を讃える工夫が最大限にされていて感動を覚えた。種目の合間や勝負所などでも音楽を流し会場と選手の奮闘の一体感もつくられていた。

男子60mHは大会3日目のナイトセッションにて実施された。増野選手は最終5組目に出場した。レースはスタートで出遅れてしまいその後も加速しきれずに7秒97で7着となり予選で敗退となった。仕上がりの状態は良かったもののロサンゼルスからの移動で体調を崩してしまい直前

のトレーニング計画が崩れたことが影響した。大きなチャンスだっただけに残念な結果であったと同時に今後の自己管理能力を高める必要があると痛感した。予選の通過ラインは7秒77であり十分に達成できる記録であった。そしてアジア勢を見ると中国、インド、サウジアラビアの3選手が予選を通過しておりアジアのレベルが上がってきていると感じた。

準決勝は3組2着プラス2で行われ実力者がしのぎを削った。通過ラインは7秒61であった。7秒6台は大会前に目標としていた記録であっただけに万全の状態ではなかったことは本当に悔しかった。アジアの選手は全員が準決勝で敗退した。決勝では地元のアポZZI選手が7秒46の好記録で地元優勝を果たし大会は大いに盛り上がった。レース中盤でハードリングミスをしたが高い集中力を発揮し最後に逆転して優勝を果たした。

60mという短い距離での勝負ではスタートの良し悪しが勝負に大きく影響をする。さらにミスをしてしまうと取り返すのも難しいためミスも許されないとといった心理状態となる。このような場面で実力を発揮することは今後世界で戦うためには必要となる要素であるため今回出場させていただいたことは良かったと感じた。今後はこのような経験値を高めていくことが必要であるため海外での室内競技会への積極的な参加をすべきだろう。そして日本でも室内競技会の開催と冬季中に常時トレーニングを行える室内競技場の設置をすべきではないかと感じた。アメリカや欧州、中国には常時トレーニングや競技会を行える室内競技場が多くあり効果的な強化につながっていると感じる。是非とも検討していただきたい。



アスリート委員会設立と活動報告

- 設立時期：2013年度、正式に設立
- 委員 アスリート委員長：高平慎士
委員会メンバー：澤野大地、久保倉里美、横田真人 加納由理、山本篤、谷井孝行、藤光謙司、金丸祐三、福島千里、岡田久美子、戸邊直人、小池祐貴、北村夢
- アスリート委員会設立目的
 - あらゆる活動を通じて、社会、スポーツ界の発展に貢献する。
 - ファン、スポンサー、陸連とのコミュニケーションを活性化させる。
 - 個人の創造力とチームワークを通じ陸上界の発展に貢献する。
 - 陸連とのコミュニケーションを通じ選手の競技環境向上を図る。
- 活動内容
 - アスリート委員会会議
2017年度（日付）2017年10月12日、11月30日、12月15・21日 2018年1月9日、2月19日、3月5日 場所：日本陸連事務局、その他
 - 2016年 熊本地震復興支援活動 実施した大会名（日付）
 - 兵庫リレーカーニバル（4月23・24日）、②織田記念陸上（4月29日）、③和歌山選抜陸上（4月30日・5月1日）、④静岡国際陸上（5月3日）、⑤セイコーゴールデンランプリ陸上2016川崎（5月8日）参加者：アスリート委員会を中心とした多くのアスリート
皆様からお寄せいただいた支援金（総額110万1630円）は日本赤十字社「平成28年熊本地震災害義援金」を通じ、被災者・被災地の援助・復興の資金などに使っていたいております。
 - ダイヤモンドアスリート「リーダーシッププログラム」への参加
日付：2018年1月11・12日
場所：NTC会議室 内容：リーダーシッププログラムにダイヤモンドアスリートのメンバーとして参加
参加者：澤野大地、山本篤、横田真人、戸邊直人、北村夢

- 冊子「Anti-3D」への参加協力
内容：公益財団法人日本陸上競技連盟が発行する「Anti-3D」への参加、アスリートアテンド
- 第101回日本陸上競技選手権大会20km競歩PR動画作成・発信
内容：目的：陸上界を盛り上げるための動画を作成・発信することにより、興味、関心、更には世の中が陸上競技を応援しやすくなる機運醸成する。
(5) 陸上競技の繁栄にご尽力された諸先輩方の意志を受け継ぎ、2013年に公益財団法人日本陸上競技連盟アスリート委員会（以下アスリート委員会）が設立されました。アスリートを取り巻く環境は日々変化しております。そのような時代こそ、アスリート自身が社会とアスリートとの関係を再定義することが必要です。アスリート委員会は、アスリートと社会の接点を増やし、アスリートが抱える問題や課題の解決に取り組み、競技力、人間力向上を目指します。
皆様、今後ともアスリート委員会へのご協力を宜しくお願い致します。



2017-2018ダイヤモンドアスリート 第3回リーダーシッププログラム 報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原 陽介 (環太平洋大学)

ダイヤモンドアスリート (DA) とは、東京オリンピックその後の国際競技会に向けて中・長期的にエリートを育成するために選ばれた競技者である。第3回リーダーシッププログラムが1月12日、味の素ナショナルトレーニングセンターにて行われた。

プログラム① 講演

講演者：深沢真太郎氏 (BMコンサルティング株式会社代表取締役)

テーマ：勝てるアスリートの数学的思考

現代社会では、数学は受験を通過するためのものとして扱われているが、本来は数字に苦手意識を持つことなく、論理的に考え、論理的に語れる人間を創るために存在するものはず。そういった問題意識から「ビジネス数学」の提唱者である深沢氏は、物事を論理的に捉えられるビジネスパーソンの育成や指導にあたっている。

「論理思考」はビジネスシーンでは大きな武器になるが、アスリートライフにも活用可能であるとし、この講義では、「数字や数学的な考え方をを用いて、物事を論理的に捉えたり整理したりする」方法が段階的に紹介された。選手たちは、深沢氏が提示する例題のステップに応じて、考え方を学んだ。

- ・step1：物事や課題を「式」で表現する (構造化する)
- ・step2：物事を、「構造化」「仮説立て」して、大まかな結論を導き出す (フェルミ推定)
- ・step3：実際に、フェルミ推定を用いて考えてみる (総合演習)
- ・step4：講義で学んだ考え方を使得、自分のことを考えてみる (応用・活用)

最後に、step1～4をスポーツ場面に応用し、それぞれが「ビジネス数学」を自らのアスリートライフに重ねる練習を行い、日々「論理思考」を行うことの大切さを学び、講演を終えた。

プログラム② ディスカッション

担当者：坂井伸一郎氏 (株式会社ホープス代表取締役)

本プログラムの進行役の坂井氏から、深沢氏の講演をうけて振り返りの時間が設けられた。坂井氏から講演を聞いて糧になったこと、持ち帰って活用しようと思ったことを「それぞれの競技者の立場」から話し合うことが提示された。それぞれグループに分かれ、DA、DA修了生、アスリート委員それぞれのグループに入る形から議論を行った。3つの立場から質問が進み、DAが修了生、アスリート委員に質問をするなどし、それぞれのグループで考えをまとめていった。

その後、各グループから代表者が立ち、意見交換した内容等の発表を行った。その中で、「構造化するとき、どのような最終目標にするか」や「競技だけではなく環境要因の構造化も必要ではないか」といった意見が出され、講演を聞いた学びの最大化する意見の交換が行われた。

プログラム③ 講演

講演者：杉山文野氏 (株式会社ニューキャンバス代表)

テーマ：LGBTとスポーツの未来

杉山氏は、フェンシング元女子日本代表選手として世界選手権などに出場した経歴がある。早稲田大学大学院にて学んだジェンダー論、性同一性障害の診断を受けた自身の体験、世界50カ国以上をまわり現地で様々な社会問題と向き合ってきた経験をもとに、「セクシャルマイノリティ (性的少数者)、LGBT」の概念の啓発やサポートに取り組んでいる。

杉山氏は、「セクシャルマイノリティ」や「LGBT」といった言葉が日本で耳にする機会が増えてきた一方で、その本質的な理解が乏しく、そもそも自分自身の日常からは遠い存在と考えている人もまだまだ多い現状があると触れた。トランスジェンダー活動家である自身の経験を踏まえ、性の多様性、LGBTの概念や取り巻く環境、スポーツ界におけるLGBTについて解説をされた。

特に、スポーツ界においては、2016年リオデジャネイロ五輪では、LGBTであることをカミングアウトしたオリンピック選手56名、パラリンピック選手12名が参加し、子どもたちに勇気を与えたりLGBTについての認知を高めたりすることに影響を与えた。また、2015年にオリンピック憲章が改訂され、性別あるいは性的指向による差別を禁止することが明記された。2020年東京大会に向けて、日本としてどういう対応をしていくかは、世界的にも注目されている。トランスジェンダー選手の参加条件についても整備され、少しずつではあるがスポーツ環境が整っているが、まだ課題も多い。例えば、LGBT当事者の不安に感じる点として、体育の授業、体育館、更衣室などで不安に感じることや、いじめ、暴力を受けたりする事例が報告されている。

2020年東京オリンピックでは「スポーツには世界と未来を変える力がある」というテーマを掲げている。アスリートの持っている力、スポーツが与える影響は非常に大きい。そのなかで“1人1人が互いを認め合って、尊重して”という点を、アスリートとして、団体として、国として、言葉だけで終わらせず、しっかりと実現していきたい。これはLGBTのことだけに限らず、みんなが暮らしやすい社会、みんなが自分を発揮できる社会にしていこうというメッセージになるとし、受講生にエールを送って講演を終えた。



2018 X-RUN CHIBAクロスカントリー大会 第3回全国中学生クロスカントリー選手権大会

▶クロスカントリーとは？

クロスカントリーを走ること。それはどんな意味を持つのでしょうか。マラソンや駅伝のようなロードではなく、トラックでもない。一部のエリートランナーを除いて、芝生や土を走る機会は、これまであまり多くなかったかもしれません。

わたしたち日本陸連と運営のメンバーは、このX-RUN CHIBA クロスカントリー大会（千葉クロ）を通じて、ランナーがクロスカントリーを走ることを意味を、ゼロから考えなおしていこうと考えました。

▶新しい団体戦の可能性

これまで日本の陸上やランニングの世界で、クロスカントリーは、冬のマラソン・駅伝から、春のトラックレースへの移行期のトレーニングの一環としてとらえられていました。

つまり、アップダウンのあるコースを走ることで、足腰や体幹の鍛錬になり、トラックでスピードを出すために必要な筋力をつける「練習」という意味合いが強かったのです。でも、欧米（特にアメリカ）でクロスカントリーはカレッジスポーツとしてとてもメジャーです。個人戦はもちろん、団体でも大学の陸上部同士で競われ、オレゴン大学やコロラド大学などの名門校がしのぎを削り、多くの観客、ファンが声援を送ります。海外では「クロカンはチームスポーツだ」と言われています。駅伝のように襷をつなぐなくても、駅伝のような団体戦の要素がうまれるのです。クロスカントリーの団体戦の順位付け方は駅伝と違って、タイム合計ではなく順位合計です。駅伝だと区間で差がついてしまうと挽回が難しいし、箱根予選会形式でタイムの合計を競っても速い選手が1人でタイム稼ぐことができしてしまう。しかし、順位で競えば、チームの総合力が求められるので最後まで分かりません。残念ながら駅伝に世界大会はありませんが、日本でもトラックやマラソン以外で、チームで世界の強豪と戦える可能性のある競技、それがクロスカントリーなのです。クロスカントリーレースは距離もそんなに長くないので800mや1500mを専門とする中距離選手も参加できます。それによって、学校の特色が色濃く出ることでより魅力的な勝負が展開されることも期待できます。芝生の上で、箱根駅伝や全日本大学駅伝に出場した大学の選手が母校の誇りをかけて、団体戦を戦う。日本でも欧米のようにクロカンを浸透する日が来るかもしれません。

▶将来の日本代表の育成

千葉クロは全国中学生クロスカントリー選手権大会も兼ねており、日本全国から将来のトップエリートとなる選手が集まります。これまでも大会の前進である国際千葉クロカンを、世界ナンバーワンを決める世界クロカンの歴代チャンピオンには鐘々たるスピードランナーが名を連ねているようにオリンピックや世界陸上への登竜門にもなってほしいと考えています。



▶ランニングの「ジャンル」を超えて

もうひとつは、私たちが考えたのが、競技・種目の垣根を超えたランナーのクロスオーバーです。ランニングブームを経て、いま多くのランナーはそれぞれ自分の好みのレースやジャンルを見つけています。

氏名	所属先	都道府県	学年
伊藤 大志	駒ヶ根赤穂中	長野県	3年
野島 健太	我孫子白山中	千葉県	3年
杉本 仁	瀬戸内邑久中	岡山県	1年
鬼塚 大翔	飯塚第一中	福岡県	1年
櫻井 一夏	帯広南町中	北海道	1年
藤宮 歩	郡山大槻中	福島県	2年
石田 洸介	浅川中	福岡県	3年
吉居 駿泰	田原東部中	愛知県	2年

氏名	所属先	都道府県	学年
細谷 愛子	静岡東中	静岡県	1年
米澤奈々香	浜松北浜中	静岡県	2年
有富 郁	吉備中	岡山県	1年
石松愛朱加	加古川浜の宮中	兵庫県	2年
三科 文	西郷一中	福島県	1年
南 日向	船橋葛飾中	千葉県	2年
原田まりん	田崎中	鹿児島県	3年
不破聖衣来	高崎大嶺中	群馬県	3年
橋本 充央	大住中	京都府	3年

※中学生招待選手（ジュニオリ長距離種目・各学年1~3位、全中駅伝MVP）

ファンラン。

駅伝。

リレーマラソン。

マラソン。

トレイルランニング。

トライアスロン。

アドベンチャーレース。

ウルトラマラソン。

そしてエリートランナーたちのレースの「観戦」。

でも、それぞれバラバラになっていませんか？クロスカントリーはすべてのいいとこ取りのようなレースです。ぜひ、すべての「走る」を愛する人に来て欲しい。クロスカントリーを通じて、さまざまなジャンルのランナーや関係者がかかわることで新たなランニング文化が産まれるはずと考えました。

今回、まずは多くのトレイルランナーたちもこのレースに参加してもらいたいと考えました。そのために20kmのレースも用意いたしました。20kmは歴戦のトレイルランナーにとっては「ちょっとショート」かもしれませんが、トレイルランナーにとってはオフシーズンである2月に、「昭和の森」でいつも以上のスピードを出して、心肺をいじめるのは最高のトレーニングにははずです。

陸上界には、あまり馴染みがないかもしれませんが、トレイルランニング第一人者の上田瑠偉選手に出場いただきました。

▶近所の公園でクロカンレース？

日本には昭和の森のように、数々の緑に恵まれた公園があります。芝生や土を走るクロスカントリーレースは、公道を封鎖などの条件が難しいロードレースや駅伝と違って身近な公園などを利用して大会を作ることが可能です。日本でクロカンレースがもっと増えていけば、いつもの公園ジョギングコースがレース会場になる。近い将来、あなたの周りでもそんなことが起こるかもしれません。日本における「クロカン」はまだはじまったばかり。

千葉クロを通じて、新しいランニングの文化を一緒につくっていきたいと考えております。



2018ジャパンレースディレクターズミーティング(2018JRDM) RunJapan(仮称)構想について

日本陸上競技連盟は、新たに市民マラソン大会の統括・支援を目的とした仮称「RunJapan (ランジャパン)」設立構想を発表し、プロジェクトリーダーとして早野忠昭(はやのただあき)東京マラソンレースディレクターに就任いただき、基本コンセプトと現在の検討状況の報告を行いました。詳細は2018年6月に発表予定です。

会議名: 2018 ジャパンレースディレクターズミーティング

日時: 2018年2月24日(土)

主催: 公益財団法人日本陸上競技連盟

後援: スポーツ庁

「日本陸上競技連盟の今後の取り組み」



日本陸上競技連盟 尾藤 貢



- ・日本陸連は、次の世代を担う2040年に向けた「JAAF VISION2017」を策定し、2040年「世界のトップ3」「アスレチックファミリー 300万人」という目標を掲げた。
- ・すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくるという「ウェルネス陸上」の理念の実現に向けて、ランニングをベースとした市民マラソン大会の拡大を図りたい。
- ・日本における市民マラソンは2015年にフルマラソン完走者が世界一となり、世界でも類を見ないランニング大国と成長を遂げたが、運営トラブルや事故が相次いでおり、公認・非公認に関わらず「安全安心な運営」な環境づくりが求められている。
- ・全国には大小合わせて約3000大会あり、うち200大会が陸連公認大会、2800大会が非公認大会であり、多くの事故・トラブルが非公認大会で発生している。
- ・海外ではイギリス陸連が「runbritain (ランブリテン)」を設立、チェコ陸連が「RunCzech (ランチェック)」を設立し、市民マラソンの統括・支援を行い、事故率の低下等の実績を挙げている。
- ・日本としても日本陸連から仮称「RunJapan (ランジャパン)」を設立し、市民マラソンの安全安心の環境づくりに取り組む。

RunJapan構想について RunJapanプロジェクトリーダー 早野忠昭



- ・各大会と連携することで「ランニング人口」「安全安心」「マーケット」の観点で世界一のランニング大国を目指す。
- ・東京マラソンを端とするマラソン大会ブームから約10年が経過しある程度、エントリー数も落ち着きを見せてきている状況がある。
- ・このままマラソンがブームとして一過性のものになるのか、文化として定着するのは、ここから何を取り組むかが大きなポイントになり、RunJapan発足を起爆剤にしていきたいと考えている。
- ・大会に対しては、大会運営の中で共通する最大公約数的な部分をひとつ基準として設けていくことで、スケールメリットを活かしたサービスの提供や、一定の基準を満たした大会にラベリングを提供するような取り組みを行いたいと考えている。
- ・ランナーに対しては、基本コンセプトとして「Fusion Running (フュージョンランニング)」を掲げ、ランナーの様々な動機を捉え、様々なサービスを企業と連携して提供することで、ランニングのモチベーションを高めるような取り組みも実施をする。

- ・日本陸連と東京マラソン財団で協定を結び、RunJapan準備室を設置し、2018年10月設立を目指して取り組む。

・RunJapan加盟大会へのメリット(案)

1. RunJapan共通のサービスの利用
例: 大会保険、AED等
2. RunJapanの各種プロパティの利用
例: ロゴマークの利用等
3. RunJapanのマーケティング情報の利用
例: ランナーインサイトや成功事例の共有等
4. RaceDirectorの養成・派遣

・RunJapan加盟条件(案)

1. フルマラソン・ハーフマラソン大会をはじめとするロードレース大会
※公認・非公認は問わない
2. 参加者500人以上の大会であること 他検討中

マラソン大会保険について

日本陸連事務局 RunJapanプロジェクト担当 畔蒜 洋平

- ・日本陸連が検討しているマラソン大会保険の検討状況について報告。
- ・日本のマラソン大会の保険の補償内容が大会によって異なる状況がある。
- ・特に、補償内容として怪我等の「傷害事故」は多くの大会で対象となっているが、熱中症、脱水症状、心筋梗塞等の重篤な事故に発展し易い「疾病事故」について、補償されていないケースが多い。
- ・日本陸連医事委員会が主催する「マラソンメディスンセミナー」を通じて、各大会に導入のお願いをしてきたが、浸透しない状況があった。
- ・日本陸連が主要な保険会社に調査をしたところ、疾病事故が対象とされる保険の取扱自体が少ない状況であることが分かった。
- ・そこで、日本陸連が特定の保険会社と商品を作り、各大会の代わりに包括的な保険契約を締結し、RunJapan加盟大会が加入できるように現在検討を行っている。
- ・また事故後の対応についても専任の代理店を設け、事故発生後のランナーへの対応についても一元的な管理を行うことでランナーに対して共通の案内が可能になるだけでなく、事故事例の蓄積ができることで各大会へのフィードバックも可能になる。

ランナーのインサイト調査について

日本陸連事務局 RunJapanプロジェクト担当 畔蒜 洋平

- ・ロードレース大会のエントリー数が近年伸び悩んでいる課題に対して、ランナーにインタビュー調査を通じて、今後の施策の対する仮説を立てることを目的に調査を行った。
- ・対象は、大会エントリー準備となる、ランニングを習慣的に行っているが大会(フル・ハーフ)に出場した経験はない30代、40代、男女4グループ。
- ・今後、導き出した仮説の検証を行うべく、更なる調査を実施する。

【対象】

- ・30代、40代、男女4グループ16名
- ・ランニングの習慣があるが、フル・ハーフマラソンに出場経験がない人

【方法】

グループインタビュー

【結果】

- ・対象者の多くは、ダイエット目的でランニングを始めたが、継続には「ストレス解消」「体調(肩こりetc)の改善」「充実・自己承認感」等別のメリットを感じている。
- ・ランニングは趣味ではなく、ルーティーンとして行っている。
- ・そもそも大会開催の情報が分からない。
- ・フル・ハーフマラソンは遠い存在であるが自分の実力にあった5km～10km大会の参加には関心がある。

【今後の取り組みとして考えられること】

- ①ランニングの効果効能の正しい情報の発信
- ②走力に応じた大会(イベント)の企画
- ③ライト層へ向けた情報発信の機会創出

東京マラソン財団オフィシャルボランティアクラブVOLUNTAINER(ボランティア)について

一般財団法人 東京マラソン財団 運営統括本部
ボランティアセンター 山本 悦子

- ・ボランティアは大会のイメージにつながる「大切なスタッフの一員」と捉えている。
- ・東京マラソンのボランティアに参加するためには2017大会からVOLUNTAINER(ボランティア)への登録が必須となっている。
- ・登録者に対しては、その他東京マラソン以外のボランティア活動や救命講習、車いす対応ボランティア講習などのスキルアップ講習等研修を実施し、ボランティアスタッフの質の向上に努めている。
- ・更に、VOLUNTAINERの核となるリーダーも養成し、現在リーダーの登録者は900名を超えている。
- ・現在の登録者は22000人を超えており、会員で多いのは40歳代～50歳代であるが、20歳代も増加傾向にある。
- ・2018大会から個人の会員登録だけではなくチーム(団体)の登録が可能となり、1700人の方が2018大会にチームとして参加する。

第18回 アジアジュニア陸上競技選手権大会

会長 横川 浩

1. 大会概要

2018年6月、アジア陸上競技連盟主催の大会「第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会」が岐阜県で開催されます。

この大会は、16歳以上19歳以下のジュニア選手が一堂に会する、アジア最高峰の陸上競技大会です。過去には、北京オリンピック4×100mリレーのメダリスト朝原宣治さんや末續慎吾さん、アテネ大会から4大会連続でオリンピックに出場している福士加代子さんといった、そうそうたる方々がこの大会に出場しており、朝原宣治さんは、1990年の北京大会において4×100mリレーで金メダル(40秒65)、走幅跳びで銀メダル(7m49)を獲得。また、末續慎吾さんは、1999年のシンガポール大会において4×100mリレーで金メダル(39秒86)、100mで銅メダルを獲得しています。このようにこの大会はオリンピックへの登竜門ともいえる大会です。

競技会場となる長良川競技場は、県都・岐阜市の中心部にありながら、近隣には、岐阜城をいただく金華山、清流として名高い長良川が位置し、自然豊かで風光明媚な立地に恵まれております。

また、大会の開催に向け、地元の小中高等学校の児童・生徒が客席から、選手のみなさんに熱い声援を送る「1校1国応援事業」や、県民が各国・地域の言葉で応援メッセージを書いた何千枚ものピースを集め、巨大なモザイクボードにして競技場で選手のみなさんにご覧いただく「応援モザイクボード事業」など、岐阜県民の心のこもったおもてなしが実感いただけるよう準備を進めています。

今回日本で初開催となるこの大会を、是非会場にてご覧ください。



岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大会要項

- 【大会名称】 第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会
【主催】 アジア陸上競技連盟 (AAA)
【主管】 日本陸上競技連盟 (JAAF)
【共同主管】 岐阜県
【運営協力】 岐阜陸上競技協会
【後援】 岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜県体育協会
【特別協賛】 西濃運輸株式会社、公益財団法人田口福寿会
【協賛】 株式会社十六銀行、岐阜県JAグループ、株式会社セレスポ、東武トップツアーズ株式会社、株式会社大垣共立銀行、佐藤食品工業株式会社
【協力】 アシックスジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、朝日大学
【期日】 2018年6月7日(木)～6月10日(日)
【場所】 岐阜メモリアルセンター長良川競技場(岐阜県岐阜市長良福光大野2675-28)
【種目】
男子(22種目)
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、110mH、400mH、3000m障害物、10000m競歩、4×100mR、4×400mR、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、十種競技
女子(22種目)
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、5000m、100mH、400mH、3000m障害物、10000m競歩、4×100mR、4×400mR、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技
【参加資格】 アジア陸連加盟国の選手であり、アジア陸連規則に遵守する者。年齢は、2018年12月31日現在で16歳～19歳の競技者。個人種目は各国2名、ホスト国(日本)3名、リレー種目は各国1チーム(6名)まで。
【競技規則】 国際陸上競技連盟 (IAAF) 競技規則による。

2. 大会100日前を記念したイベントの開催

(1) アジアジュニア陸上2018カウントダウンボード除幕式(2月27日:岐阜県庁)

大会の開催100日前となる2月27日(火)に、岐阜県庁前においてカウントダウンボード除



古田知事あいさつ



友永日本陸連副会長あいさつ



安藤友香選手応援メッセージ



カウントダウンボード

幕式が開催されました。

式の冒頭、古田肇岐阜県知事から「東京五輪の登竜門となる大会。名だたるアスリートが羽ばたいたアジアジュニア陸上を県を挙げ盛り上げたい」とあいさつ。応援に駆け付けた、岐阜県出身の陸上日本代表アスリートの安藤友香選手（2017年世界陸上マラソン日本代表）からは、「国内初の大会がふるさと岐阜で開催されることをうれしく思う」とメッセージが寄せられ、大会関係者によりカウントダウンボードの除幕が盛大に行われました。

(2) アジアジュニア陸上2018スタートアップイベント（3月3日：岐阜メモリアルセンター）

大会の開催100日前を記念して、3月3日（土）に、岐阜メモリアルセンターにおいてスタートアップイベントが開催されました。

イベントの冒頭に行われたスタートアップセレモニーでは、大会アンバサダー朝原宣治さんから「自分も高校三年の時に初めて出場した国際大会がアジア



古田知事あいさつ



大会アンバサダー朝原さん応援メッセージ



がんばろう三唱

ジュニアだった。ぜひ会場に足を運んで応援してほしい」とメッセージが寄せられ、その後、陸上日本代表アスリート（青木沙弥佳選手（北京五輪4×400mR日本代表）、矢澤航選手（リオデジャネイロ五輪110mH日本代表）、安部孝駿選手（2017年世界陸上400mH日本代表））や、地元の東長良中学校の陸上部の生徒も参加して、尾藤岐阜陸上競技協会会長の発声により「がんばろう三唱」が行われ、大会の成功に向け氣勢を上げました。

イベントでは、国際陸上競技連盟の指導資格を持った講師が指導する陸上教室や陸上体験スタンプラリーが開催され、合計約400名の子どもたちが汗を流しました。陸上教室では、陸上日本代表アスリートによるハードル走の実演も行われ、参加した子どもたちからは歓声が上がっていました。

ほかにも、柔道家篠原信一さん、元サッカー日本代表前園真聖さんが出演するFMラジオ番組「篠園音楽堂」の公開録音が開催されるなど、会場は一日を通して、多くの来場者で盛り上がりました。



陸上教室の様子



陸上体験スタンプラリーの様子



当日の会場の様子

第23回JAAFコーチング・クリニック

強化委員会男女競歩ナショナルチーム強化スタッフ 清水 茂幸

第23回JAAFコーチング・クリニックを2018年2月10日(土)に、味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催した。参加者は43名であり、JAAF公認コーチ・ジュニアコーチ有資格者、中学・高校・大学・クラブチームの指導者らであった。講師は、わたくし清水茂幸(男女競歩ナショナルチームオリンピック強化スタッフ、岩手大学)が務めた。また森岡紘一郎氏(富士通・ロンドンオリンピック男子50km競歩入賞者)にデモンストレーターを務めていただいた。午前は講義、午後は講義と実技という形式で行った。また今回のクリニックで使用した資料は三浦康二氏(JSC・男女競歩ナショナルチーム医科学スタッフ)と清水が共同で作成したものをを使用した。

午前のプログラムは、「日本競歩の現在一競技力向上の要因一」と題し、北京世界陸上、リオ五輪、ロンドン世界陸上と3大会連続でメダルを獲得している要因に関して講義を行った。メダル獲得の要因は①量重視から、動き・量重視のトレーニングへ②ナショナルチーム(NT)体制の充実③医科学サポートと強化の強力なタッグ④競技会場整備(インターハイ正式種目導入等)⑤審判制度整備(JRWJの導入等)であることを述べた。2000年代に入り男子競歩は世界大会で入賞を繰り返すまでに成長したが、なかなかメダルを獲得することが叶わなかった。そのような状況から脱却できたのは、ロンドン五輪以降、今村文男氏(富士通)が強化の責任者となり、10000mを38分前半で歩ける動き作りを陸連合宿で強化対象者に重点的に行ってきたことが最大の要因である。その結果、2012年は世界ランク最高49位だった男子20km競歩は、2013年以降世界ランク1位を日本人競技者が継続するようになった(2017年は2位・2018年は3月10日現在1位)。一方、この20kmの記録向上に50km競歩者も大いに刺激を受け、ベテラン競技者の谷井孝行(自衛隊体育学校)が世界の壁をこじ開け、荒井広宙(自衛隊体育学校)、小林快(ビックカメラ)がこれに続いた。50kmで安定した競技成績を出している背景には、間違いなく20kmでも通用するレベルのスピード力がある。荒井、小林、丸尾知司(愛知製鋼)はいずれも20kmを1時間19分台で歩いており、このスピードが50kmのパフォーマンスに大きく関与していることは疑いない事実であろう。以上のような内容をさまざまなデータを通して説明した。

昼食を挟んで、午後は競歩技術のポイント、歩型と判定、タレント発掘、及びトレーニング法に関しての講義を行い、その後陸上トレーニング場で実技を行った。

まず講義では映像をもとに競歩技術のポイントを解説した。特に、地面をいかに効率的に押せるかがスピードを得られるポイントになるので、その点を強調した。また、タレント発掘に関しては、「持久力が高い、模倣力に優れる、筋力が強い」競技者が競歩に適していることを説明した。トレーニング法に関しては、まず競歩の競技成績を高めるのに必要な要素として①基本技術習得②スピードを得るための体力・技術③スピードを維持するための体力・技術④高いレベルのトレーニングを継続するための体力があることを述べ、それらの要素を高めるために目標に合わせて適した時期に適した量・強度でトレーニングを行う必要があることを述べた。一方、体幹部の強化及び股関節周りの動きを高めるためのトレーニング方法に関しては、競歩NT合宿で実際行っているトレーニングの映像を見てもらい、その内容に関しての解説を行った。

その後陸上トレーニング場へ移動し、実技を行った。森岡氏をデモンストレーターにして、講義で述べた内容の復習をかねて、競歩の実際の動作を受講者に行ってもらった。また、歩型を安定させるドリルも併せて行った。最後に全員で5分/kmのペースで400mを歩いてもらい、身体どの部分に負荷がかかるかを体験してもらった。ドリルを行う場面では、なれない動きのためか、ギクシャクする場面が続出したが、繰り返すうちに少しずつスムーズな動きができるようになってきた。最後の400mは、競歩のトレーニングスピードとしては基本となるスピードで歩いてもらったが、多くの受講者が競歩未経験者であったことから、かなりの負荷に感じたようであった。

今回のコーチング・クリニックは、講義においては理論的に詳細なデータからの説明を意識し、トレーニング方法に関しても、なぜそのトレーニングが必要なのかを中心に話を進めたことは有益であったと思われる。また近年世界大会で連続してメダルを獲得している理由に関して、多くの受講者が興味を持って聴いたくれたことに感謝申し上げたい。今後このクリニックを通して一人でも多くの方に競歩指導に携わっていただければありがたいと考える。



大会観戦ガイド

IAAFワールドチャレンジ第2戦 セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪 兼 ジャカル2018アジア競技大会日本代表 選考競技会

▼日時：2018年5月20日（日）

競技開始時間 11時30分予定

▼会場：ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区長居公園1-1

▼アクセス：

地下鉄御堂筋線「長居」下車。1番出口より500m（徒歩6分）

JR阪和線「鶴ヶ丘」下車。東出口より550m（徒歩6分）

JR阪和線「長居」下車。東出口より650m（徒歩7分）

▼種目：

【IAAFワールドチャレンジ】

〈男子11種目〉

100m、200m、800m、1500m、110mH、400mH、
走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、やり投

〈女子8種目〉

100m、400m、800m、3000m、100mH、400mH、
棒高跳、やり投

【IAAFハンマースローチャレンジ】

〈男子1種目〉

ハンマー投

【オープン】

〈男子〉

400m、3000m、4×100mR、三段跳

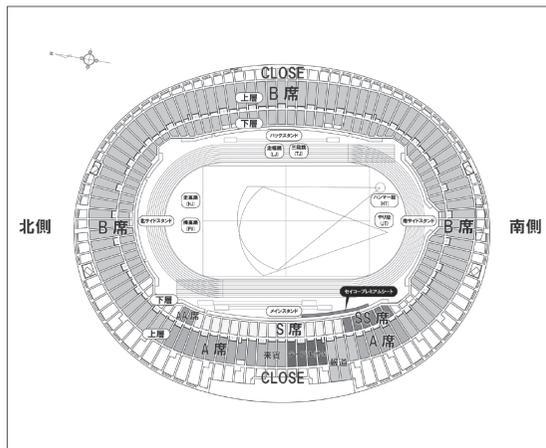
〈女子〉

4×100mR、4×400mR

〈パラリンピック種目レース〉

男子100m T64

※種目は、予告なく変更になる場合がございます。



※風向きなどにより、競技位置が変わることがあります。ご了承ください。

▼テレビ放送（予定）：TBS系列生中継 15：00～

▼公式HP：<http://goldengrandprix-japan.com>

▼チケット：好評発売中

一般入場券のご案内

前売り券ご購入の方のみ公式プログラム付(B席以外)!!

開催日当日、会場のプログラム販売所でチケットと引換にお渡しします。

座席	前売り	当日
SS席／小学生以上（指定席）	6,000	6,500
AA席／小学生以上（指定席）	4,500	5,000
S席／小学生以上（指定席）	4,000	4,500
A席／一般（ブロック指定席）	3,000	3,500
A席／小・中・高校生（ブロック指定席）	2,000	2,500
B席／一般（自由席）	1,500	2,000
B席／小・中・高校生（指定）	1,000	1,000
テーブル付きゆったり席／（指定席・A席同等位置）	4,500	5,000

※小学生未満無料。但し、指定席券内にて座席を必要とする場合は指定席チケットを要購入。

※指定席からB席の移動可能。

※シルバー割引（当日券のみ）は、60歳以上の証明書提示にて一般料金より50%割引（B席対象）。

※障害者割引（当日券のみ）は、証明書提示にて一般料金より50%割引、付添人1名まで同一料金（B席対象）。

※各種割引詳細、車椅子席等のお問合せは大会問い合わせ窓口まで。

前売り入場券販売所

■チケットぴあ

Pコード：838-755

インターネット購入

<http://t.pia.jp/t/>（24時間購入可能）

電話予約：0570-02-9999（Pコード予約）

（店頭販売）

・全国のぴあ店舗

※営業時間は店舗によって異なる場合がございます。

※所在地・営業時間は<http://t.pia.jp/guide/retail.jsp>よりご確認ください。

・セブン-イレブン（24時間購入可能）

※店舗のマルチコピー機よりお買い求め下さい。

・サークルK・サンクス（早朝5：30～深夜2：00）

※店舗のKステーションよりお買い求め下さい。

■チケットに関するお問い合わせ先

大会問い合わせ窓口（一般入場券のお問い合わせ等）

TEL 03-3365-5531（平日 10：00～19：00）

事務局からのお知らせ

◆◆ガトリン、桐生選手、山縣選手ら参戦！セイコーゴールデングランプリ、チケット発売中！◆◆



5月20日（日）、大阪・ヤンマースタジアム長居で開催する「セイコーゴールデングランプリ陸上2018大阪」。大注目の男子100mには、ロンドン世界選手権金メダルのジャスティン・ガトリン（アメリカ）が参戦決定。挑む日本勢は、日本人初9秒台を叩き出した桐生祥秀（日本生命）、日本歴代2位10秒00の山縣亮太（セイコー）、日本歴代7位10秒07の多田修平（関西学院大学）、日本歴代9位10秒08のケンブリッジ飛鳥（Nike）、高校歴代3位、日本陸連認定「ダイヤモンドアスリート」の第4期生（2017-2018）である宮本大輔（東洋大学）が出場予定。今大会のキャッチコピーは「#一秒先の世界へ」。

スタジアムでトップアスリートの一秒先の世界を体感ください！

チケット絶賛発売中！詳細は、公式WEBサイトをチェック！

<http://goldengrandprix-japan.com/> **ゴールデングランプリ** **検索**

◆◆「#ナンバーワンしかいらぬ」第102回日本選手権大会特設サイトをチェック！◆◆

第102回
**日本陸上
競技選手権大会**
The 102nd JAAF Athletics
Championships



2018年6月22日（金）～24日（日）、山口県維新みらいふスタジアムで開催する、第102回日本陸上競技選手権大会。アジア競技大会の選考競技会も兼ねて行われる本大会は、各種目のトップアスリートたちが集結し、「日本一」の称号を求め、熱戦が繰り広げられる！

プロモーション動画、選手情報など様々なコンテンツを特設サイトへ順次掲載しておりますのでチェックください！

特設サイト⇒<http://www.jaaf.or.jp/jch/102/>

102回 日本陸上 **検索**

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
高橋 克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>